



スズメの巣は、どこにあるの

人の作った建物に巣を作る

スズメは、人間があまりいなかったころは、木の枝などに巣を作っていたようです。今ではスズメは、家のかわら屋根のかわらのすき間、軒下のすき間、かべの板と板の間、えんとつのあな、石がきの石の間、材木置き場、橋げたの下、あけしめしていない雨戸の戸ぶくろのなかなどに、巣を作ることが多いようです。

人間の近くに巣を作れば、食べ物が近くですぐ手に入るので、こまりません。ひなをねらってくる、こわいカラスやタカも近づいてこないし、家の屋根は木の枝より高い所にあつて、雨や風も防げます。しかも、暖かいのです。

鳥の巣作りも競争が激しい

巣箱をかけてやると、巣箱の入り口の大きさによって、シジュウカラやスズメ、ムクドリが、巣をとりあいます。入り口のあなの大きさが3センチメートル以上あると、シジュウカラはスズメに追い出されてしまいます。入り口が5センチメートル以上だと、大きくて強いムクドリに、スズメが追い出されてしまいます。

春3月ごろから、スズメが卵を産む時期になります。糸くずや、イヌのぬけ毛、鳥の羽のぬけ落ちたもの、わらやビニールひも、かれ草などを口にくわえて、飛んでいるスズメがいたら、近くで巣作りを始めています。

糸くずなどを、どこへくわえていくか、じっと観察して、スズメの巣がどのへんにあるのか見つけてみましょう（監修・今泉 忠明）

